

千葉市感染症発生動向調査情報

2015年 第13週 (3/23-3/29) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		13週	12週	11週	10週
小児科		18	18	18	18
眼科		5	4	5	5
インフルエンザ*		28	28	28	28
基幹定点		1	1	1	1

上段:患者数
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉市				千葉県	
		注意報	3/23-3/29	3/16-3/22	3/9-3/15	3/2-3/8	3/16-3/22
			13週	12週	11週	10週	12週
小児科	RSウイルス感染症	○	4	2	4	4	22
	咽頭結膜熱		4	3	12	7	81
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		45	47	64	68	403
	感染性胃腸炎		111	117	130	126	759
	水痘		7	5	6	8	50
	手足口病		1	2	0	0	7
	伝染性紅斑		8	11	9	7	88
	突発性発しん		10	11	7	8	63
	百日咳		0	0	0	0	1
	ヘルパンギーナ		0	0	0	0	1
	流行性耳下腺炎		5	6	6	6	52
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)		75	98	95	89	1,030
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
	流行性角結膜炎		4	1	2	1	11
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	0
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
	マイコプラズマ肺炎		0	0	0	0	0
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0	1	0	0	1
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	1	1

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(5件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	胸水ADA値の上昇	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	70歳代	菌の検出及び薬剤耐性の確認
結核	女性	80歳代	病原体の検出	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出
アメーバ赤痢	男性	40歳代	病原体の検出	-	-	-	-

・結核2件(45)、アメーバ赤痢1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(2)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(4)の報告があった。

※ ()内は2015年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

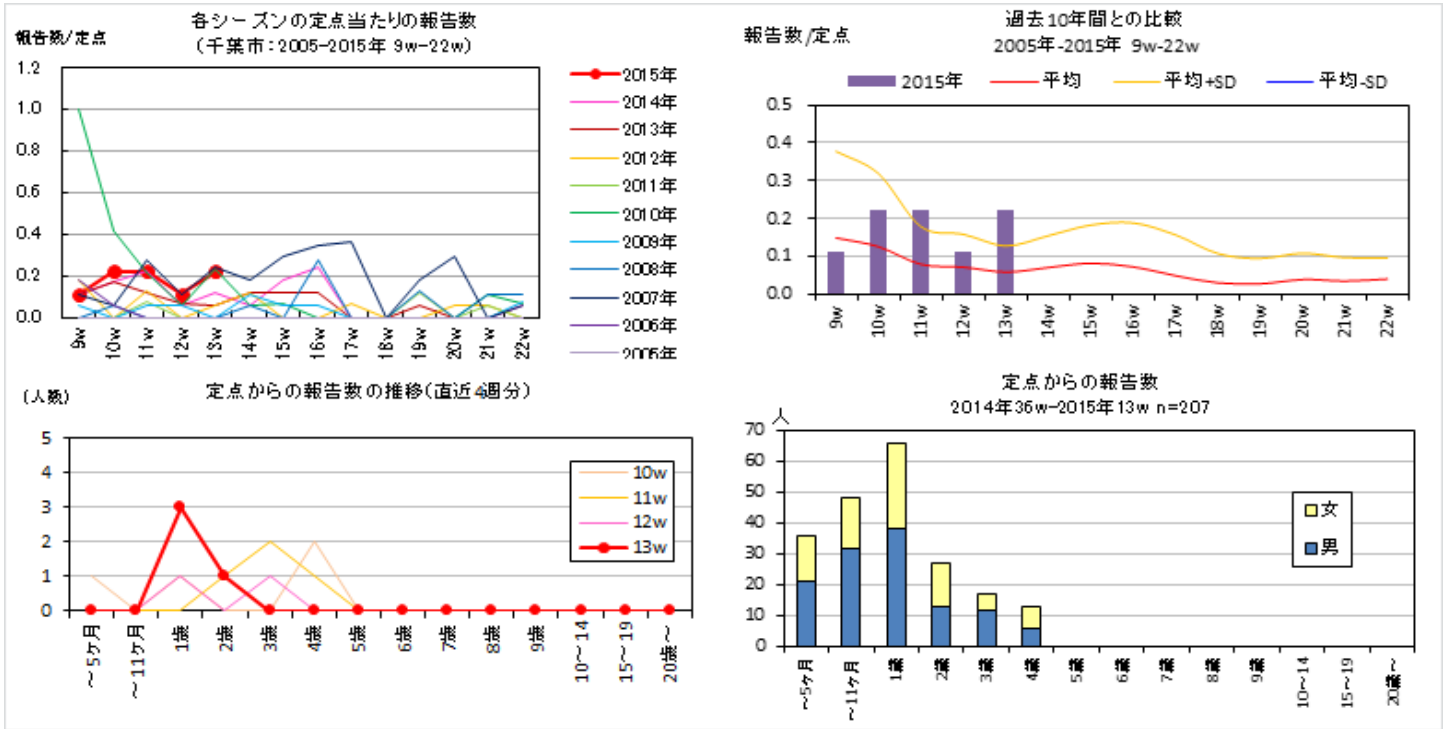
定点当たり報告数 第13週のコメント

＜RSウイルス感染症＞前週より増加し0.22となった。過去10年の同時期と比べると多い。

■ トピック ■

＜RSウイルス感染症＞

全国レベルの2015年第12週現在は、過去8年間の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では、宮崎県、沖縄県、福岡県の順に多く報告されています。千葉県は全国レベルより少なくなっています。千葉市の2015年第13週は、前週より増加し0.22となり、過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区(0.75/定点)で最多で、同区の1歳で最も多く発生が報告されました。2015年第1週から第13週現在の累積報告数(n=207)によると、性別では男性が58.9%(122名)、女性が41.1%(85名)で、年齢階級別では1歳(31.9%:66名)、6～11か月(23.2%:48名)、0～5か月(17.4%:36名)の順に多くなっています。



＜劇症型溶血性レンサ球菌感染症＞

全国レベルは2010年から増加し続けており、2014年は過去8年と比べて1.3倍～3.5倍の273件で最多となりました。2015年第12週現在は、過去9年間の同時期と比べるとおよそ2倍～5倍の127件で最多となっています。都道府県別では、東京都、大阪府、神奈川県順に多く報告されています。千葉県は5名で全国7位となっています。千葉市では2015年第13週現在4件の届出があり、過去10年と比べると、2013年に次いで多くなっています。性別は全員男性で、年齢階級は50歳代と70歳代がそれぞれ1名ずつ、60歳代が2名、推定感染経路が創傷が3名、不明が1名となっています。

